

本市の学力の状況について

学校と家庭の取り組みで学力向上を

〔問合せ先〕本市学校教育課 指導グループ ⑤ 51111(内線5341)

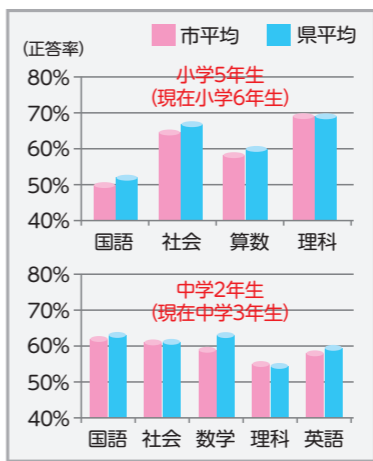
本市の学力の現状

本市では毎年、次のとおり3つの学力調査を実施しています。

今年それぞれの学力調査の結果をお知らせします。

① 鹿児島学習定着度調査

小学5年生、中学1・2年生を対象に、本年1月に県独自の調査として実施

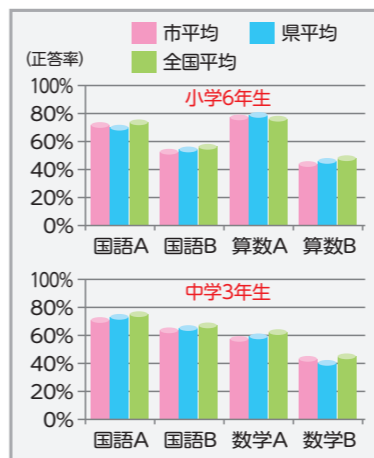


傾向

小学6年生・中学3年生とも、全体的に県平均をやや下回っていますが、理科においては県平均をやや上回っています。

② 標準学力調査(NRT)

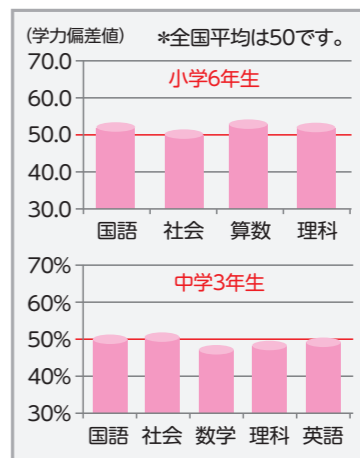
小学1年生以外の全児童生徒を対象



本年4月に文部科学省主催で実施

③ 全国学力・学習状況調査

小学6年生・中学3年生を対象に、本年4月に文部科学省主催で実施



に、本年4月に実施

傾向

国語・算数(数学)の2教科においてA問題(主に知識・B問題(主に活用)で実施されます。

小学6年生は、算数のA問題で全国平均を超え、国語のA問題では概ね全国平均に近い結果でした。

中学3年生は、国語Bの問題数は9問しかなく、一人当たりの平均正答数が全国で6問なのに対して本市は5.6問と、全国平均に近い正答数でした。しかし、全ての教科において全国平均までさらに高めていく必要があります。

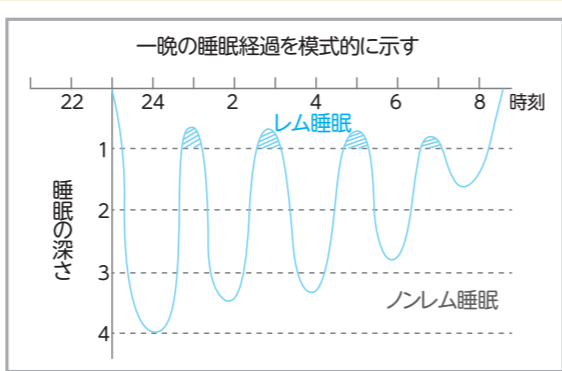
このような結果から、本市の子どもたちは、基礎的・基本的な内容の知識・理解は概ねできていますが、学んだことを日常の生活や場面に活用する力については、課題があるといえます。問題を解決していく上で大切な思考力・判断力・表現力などをさらに高めていく必要があります。

学力向上に向けた学校の取り組み

学校の授業においては、課題意識を高め、思考力・判断力を発揮させながら、考えたことを友達と話し合うことが必要です。

そこで、昨年度から子どもにも多くの活動をさせたり、討論させたりすることで、子どもが主役の授業にするため

り返して目覚める。この周期は、約90分の周期で起こる。(左図参照)



(東邦大学医学部教授 鳥居鎮夫氏著「眠りの周期」を参照して作成)

また、レム睡眠のときに、脳はその日の記憶の整理をし、夢を見るのもこのレム睡眠の時が多い。さらに、このレム睡眠の時が最も目覚めやすい。

このことから、子どもを朝起こすときに、レム睡眠時に起こすようにすると気持ちよく目覚めることができます。ぜひ、この睡眠リズムを生かして学力向上につなげられるように、早寝早起きの規則正しい生活習慣を身に付けさせましょう。

③ 国語力を育む親子の会話

子どもの学力を伸ばす上で、全ての基礎になるのは国語力(話す・聞く・

に、各学校で積極的に授業改善に取り組んでいます。具体的には、市の「確かな授業づくり10の提言」をもとに、各学校で授業改善のための推進プランを作成し、実践しています。

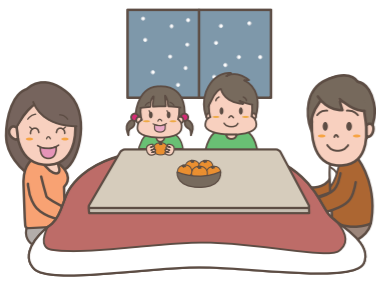
本市の子どもたちは、全国学力・学習状況調査のB問題のような思考力・判断力を問う問題に慣れていない実態があります。そこで、学校ではテストを受けて終わりではなく、テストが終わった後、問題の解き方について話し合わせたり、100点を取れるまで何回も同じ問題に取り組みせたりしています。この取り組みで、多様な問題の解き方を習得させるとともに、「分かった」「できた」「自分もやればできる」といった達成感を実感させ、学習に対する自信とやる気の向上につなげていきます。このように、繰り返し取り組むことが確かな学力の定着にもつながっていきます。

この「100点チャレンジ」の取り組みは、家庭の協力が重要です。子どもがテストを持ち帰った際にテストの間違いを指摘するのではなく、「100点チャレンジ」でできるようになった問題について努力した過程を褒め、認めることが子どもの学習意欲に火を付け、学力向上の一翼を担うこととなります。間違った問題への取り組みを励まし、「よく頑張ったね」と声掛けをしてあげてください。

書く・読む)です。この国語力は、よりよい人間関係を築くための基礎になるコミュニケーション力の源であるともいえます。

子どもたちの国語力を伸ばすためには、家族の会話が大切です。食事の時は、その日体験したことを家族で楽しく語り合みましょう。「今日はどこで誰と何をして遊んだの?」などの簡単な質問で構いません。「公園で誰と遊んだ?」などと短く返答してきても、「公園でどんな遊びをしたの?」などといったように話をつなぎ、会話が弾むようにすることが大切です。

「話す」ことだけが会話ではありません。仕事が忙しく、なかなか会話ができない場合は、親子で交換メモなどに取り組んでみてはいかがでしょうか。



これら3項目は、子どもの学力を育むために家庭でできることの一例です。参考にしながら、「我が家なりの取り組み」を実践してください。

家庭学習状況調査(平成28年度1学期分)

	学年	目標時間	達成率
小学校	1年	40分以上	60.5%
	2年	50分以上	72.8%
	3年	60分以上	69.5%
	4年	70分以上	65.7%
	5年	80分以上	72.1%
	6年	90分以上	69.8%
中学校	1年	100分以上	50.0%
	2年	110分以上	47.8%
	3年	120分以上	60.5%

家庭での取り組みの工夫

子どもの学力は、学校の授業だけでなく、家庭での生活習慣や家庭学習の取り組み次第で向上します。次の3項目を参考に工夫してみてください。

① 効果的な家庭学習の時間の確保

本市では、学校と家庭との協力・連携をさらに深め、子どもの家庭学習の充実を目指し、「家庭学習の手引き」を各家庭に配布しています。

その中で、家庭学習にかける時間の目安を定めています。

左表は、各学年の家庭学習にかける時間の目安の達成状況です。全体的に目標時間を達成しておらず、特に中学1・2年生の時間の確保が課題です。

家庭において、この学習時間をどう確保していくかが課題となります。中学1年生(目標時間100分以上)を例に挙げると、

18時30分に帰宅してから40分宿題をする。夕食などの家族団らん後、60分間宿題や自主学習をする。

となります。このように、40分と60分の2回に分けて勉強するなど、各家庭の実情に応じて家庭学習の時間を確保し、目標時間の達成ができるよう工夫することが大切です。

② 質の良い睡眠の確保

学力の向上には、生活のリズムを整えることも大切です。特に「睡眠の量と質が学力の向上に関わる」という研究結果もあります。睡眠不足の状態だと、せっかく学習したことも脳に定着しません。



人は、眠り始めて次第に深い眠り(ノンレム睡眠)に入り、その後浅い眠り(レム睡眠)に戻り、それを4〜5回繰り返